



西銘 多紀子 議員

不登校対策について伺う

答 関係機関と連携し
取り組んでいる



問 本町の不登校児童の人数、その要因について伺う。

教育長 令和5年度では、小学生129名、中学生120名である。その要因で最も多いのは「無気力・不安」である。

問 年間の予算を伺う。

学校教育課長 教育相談事業の予算として令和6年度3215万円が予算化されている。

問 不登校児童の抱える問題にどう対応しているか伺う。

教育長 各学校で心の教室相談員、中学校で自立支援教室や適応指導教室で専任の指導員を配置し個別対応を行っている。

また、町教育相談支援センターや島尻教育研究所内にある、しなのめ教室を活用し対応している。

県費によるスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、こども課などと連携し取り組んでいる。

小学校の通学かばんを問う

問 小学校の通学かばんに関して本町の見解を伺う。

教育長 児童の安全面を考え、両手が塞がらず転倒時などを支えることができるものを推奨している。

津嘉山公園を問う

問 津嘉山公園で頻繁にボール遊びをしているが場所が道路側であり、事故を防ぐ上でも防球ネットは必要ではないか。

副町長 防球ネット設置の計画はない。

問 運転手及び保護者として危険性を感じる。道路の速度制限は難しいため、防球ネットをしないのなら徹底的な注意喚起や管理が必要ではないか。

都市整備課長 公園施設としての管理が必要であり看板で周知する。多目的広場なので各世代の方が使っていただける広場づくりを進めていく。

問 供用開始の有無にかかわらず公園管理者の責任について伺う。

副町長 公園利用条件の看板等を設置し、注意喚起をしていく。

緋会館を問う

問 緋会館の糸引き場が屋上にあり職人の負担が大きいとの声があるがどうか。

副町長 組合からの要望等はない。



緋会館 屋上糸引き場

問 組合からの要望等があれば対応できるのか伺う。

産業振興課長 対応できるものかどうかも含め協議していく。